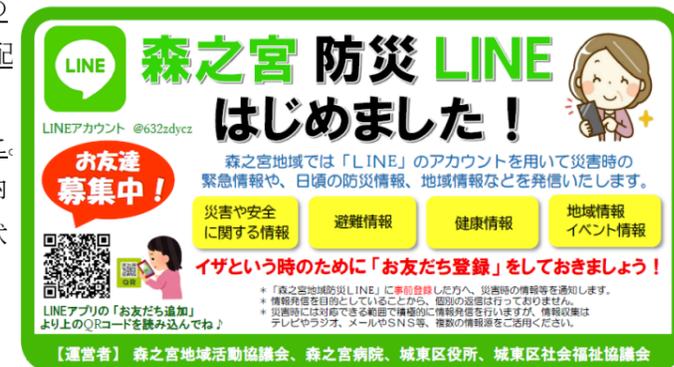


令和2年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成「事業評価」(事業概要)

団体名	社会医療法人大道会 森之宮病院	総合評価 A	評価基準 (総合評価) S (非常に高く評価できるもの) A (高く評価できるもの) B (一定の水準にあるが一部課題のあるもの) C (一定の水準にあるがかなり課題のあるもの) D (全般的に多く課題のあるもの)
事業名	SAC高層賃貸住宅における災害弱者支援 (多世代・多機関交流の推進) ②		
実施期間	2020年4月1日～2021年3月31日		
助成(実績)額	4,884,103円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
<p>事業の進め方:</p> <p>① R2年度の本事業の実施にあたっては、コロナ禍における感染対策(緊急事態宣言・まん延防止等措置等)に留意し、各事業(下記③～⑦)を区役所・UR都市機構・区社協・地域包括支援センター・地域活動協議会等からなるスマートエイジングシティ(SAC)ネットワーク会議での相談・協働により実行した。</p> <p>② 防災支援や地域活動には継続性が求められる。補助金終了後の事業継続を視野に、新たな関係機関との協力関係の構築を目指して活動した。</p>	<p>① 会議等実績:当活動期間中にSACネットワーク会議(コア会議含む)を4回、地活協役員会1回ほか、適宜各地域役員・関係機関との打ち合わせを重ねた。</p> <p>② 将来に向けた関係機関の拡充:次年度以降の事業展開について行政・企業・大学関係者へ相談を継続した。</p>	<p>① 住民と意見交換できる機会が増加したことにより、<u>防災マップ作成や防災展などのイベント実施に向け、町会や地域活動協議会との役割分担・協働関係が継続し、防災活動の活性化につながった。</u></p> <p>② <u>ハード・ソフト両面の地域課題に対し、今後の事業継続に向け企業・若年層との協働関係の拡充を目指す中、大阪市立大学都市防災研究センターと協働の足がかりを作ることができた。</u></p>
<p>代表的な事業</p> <p>③ 安否確認システムのバージョンアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 安否確認のデモ登録の準備 安否確認用登録調査の概要説明 登録調査の広報 登録調査用紙の回収・質疑応答 登録調査用紙のデータ入力・集計 調査用紙の管理方法の検討・確定 安否確認登録調査の広報用資料完成・配布 安否登録(メールアドレス)の更新登録 	<p>③</p> <p>昨年度に引き続き(一財)ダイバーシティ研究所へ本システムの構築を委託した。</p> <p>9月:SACネットワーク会議にてR元年度に構築した安否登録システムのデモンストレーションをLINE経由により実施した。安否確認までのアクション数が多く、確認精度が低くなるリスクが分かった。</p> <p>1月:<u>新たなメールアドレス登録システムを構築し、案内資料を作成の上、地域役員・SAC関係機関の協力を得て地域内3200戸全戸に配布した。</u></p> <p>2月:上記に対し<u>306通の回答を得、登録要件を満たす286世帯のメールアドレス登録を行った。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> WEBトラブルに備えWEB上の情報登録以外に紙データを当院で保管している。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動協議会役員・SAC参画機関とデモンストレーションを行った結果、<u>発災時にはできるだけ少ないアクション数による安否確認が重要だと課題を共有できた。</u> メール返信による安否確認システムはメールユーザーには効果的だが、非メールユーザーへの支援体制(支援ボランティア等)構築の必要性を課題として把握できた。 <u>メールによる安否確認は、高層住宅のエレベーター停止時に上下移動せずとも安否情報を確認できるほか、コロナ禍で非対面のまま安否を確認できる効果もあり、感染対策上も有効なシステムであると確認できた。</u> 12月に団地12階で火災が発生した際、上下階等の安否確認に労力を要した。<u>大規模災害以外の火災発生時にも本システムを活用したいとの意見があり、住民から実用効果を期待されている。</u>
<p>④ 地域・施設情報の共有、マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備に向けた各所への相談 防災LINEの開設 防災備蓄倉庫の見学会(地域活動協議会) 防災展開催のお知らせ 防災展中止のお知らせ 災害・健康への注意喚起を配信 防災マップを関係者間で供覧の上作成 防災マップの配布 安否確認登録調査結果の広報 	<p>④</p> <p>昨年度の実態調査・発災想定ロールプレイで把握した課題(地域情報が分からない)に対して、<u>地域情報を共有できる仕組みを構築した。</u></p> <p>ア) 防災LINEによる地域住民への情報提供</p> <p>8月:森之宮防災LINEを開設した</p> <p>9月:LINEを活用し、安否確認登録のデモンストレーションを行った</p> <p>10月以降:適宜、台風・コロナ・地震・火災などの注意喚起を配信した。</p> <p>イ) 防災マップの作成</p> <p>10月:防災備蓄倉庫を関係者と見学し、内容確認・課題把握を行った</p> <p>12月:防災備蓄品展示会のチラシを作成し、掲示・配信により広報した</p> <p>⇒開催2日前に緊急事態宣言発令に伴い中止が決定。中止を広報した。</p> <p>3月:<u>防災マップを作成し、全戸配布およびLINE配信等で広報した。</u></p>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> 団地内掲示板への資料掲示・全戸配布など、紙面に頼る広報活動に加え、<u>若年層も視野にタイムリーな情報提供ツールとして、地域内のLINEを開設し、280余名のお友達登録を得た。</u> <u>お友達登録の中に高齢者家族の登録があることも分かり、LINE配信により、地域外の支援を得るきっかけとなることも把握できた。</u> 防災マップの作成過程で地域内備蓄状況を住民と共有でき、現状をマップとして広報できた。



⑤ 訓練・勉強会等を通じた地域住民・関係機関との協働

- ・防災イベントの開催相談
- ・小さな秋祭りにてプレ防災訓練実施
- ・防災展の開催準備 ⇒中止
- ・安否確認登録調査の全戸配布
- ・12/20の火災発生後の振り返り

⇒身近な避難場所・必要備品の整備

- ・購入する防災備品の再検討・確定
- ・今年度事業の報告資料（防災マップ・安否確認登録調査の結果）の広報

⑤

例年協働している防災関連イベント（小学校・地活協防災訓練、森之宮フェスティバル）がコロナ感染対策により中止されたため、本事業用の防災イベントを関係者と企画し、実施した。

11月：団地の秋祭りと併設する防災展で、防災備蓄を知らせるパネル展示、エレベーター停止時の上下移動に活用するエアストレッチャーの利用体験を行った。

12月：防災展を企画したが、緊急事態宣言により中止せざるを得なかった。

1月：SACネットワーク会議で火災発生後の対応について協議した。大規模災害では行政判断により避難所が開設されるが、火災では開設されない。避難所以外に住民避難に備える機能が必要であることが分かった。

3月：地域内の防災備蓄情報を共有する防災マップを作成し、SAC関係機関と全戸に配布した。

⑤

- ・12月：日曜未明の火災発生であり、寒さ・暗さ・休日・緊急事態宣言下の悪条件が重なる中、関係者による高齢者等の安否確認や住居外サポートは難航した。関係者と協議の上、気温・暗さ・感染対策を踏まえた必要備品を準備し、近隣に避難所機能を設ける備えを行った。
- ・火災発生後、防災展を緊急事態宣言の発令に伴い中止したことを悔やむ声が地域内から多数上がった。備蓄・安否確認・救援情報を共有し、体験できる場が求められていることを再確認する機会となり、年度末の防災マップ作成時に、防災展で予定した備蓄推奨一覧なども盛り込み、広報を行った。



森之宮地域 防災備蓄MAP
森之宮地域保存版
令和2年度（2021年3月発行）

災害に備える
～住み慣れた自宅で災害後を乗りきるための「自助」「共助」～

大阪府福祉基金地域福祉振興助成事業
（国）（府）（市）（区）（町）（村）福祉推進課地域福祉課

←全戸配布・LINE配信した
防災マップ（表紙）
森之宮病院 HP より
無料ダウンロード可

波及効果を目指した広報活動

⑥

- ・森之宮地域活動協議会 Facebook への掲載
- ・森之宮病院ホームページへの資料掲示（ダウンロード可）
- ・行政・医療・介護・福祉関係者への広報

⑥

- ・Facebookには適宜イベントや案内資料がアップされ、閲覧されている（フォロワー数250余）
- ・森之宮病院ホームページで、防災マップをアップし、ダウンロード可とした。

下記の講演等により専門職向けに広報活動を行った。

ア) 理事長 大道道大：2021 病院運営 EXPO
「大阪の医療はコロナで何が変わるか」

イ) 副理事長 宮井一郎：回復期リハビリテーション病棟 WEB 研究大会
「リハビリテーション・ケアの可視化～心の形～」

ウ) 医療相談室 藤井由記代

-1 日本ソーシャルワーク学会 学会企画シンポジウム
「社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラム改正とソーシャルワーク研究・教育・実践の課題」

-2 大阪府看護協会 病院看護管理者向け 地域包括ケアに係る研修
「地域とつながる病院づくり」

小さな秋祭り併設防災展
エアストレッチャー
救援体験風景⇒



⑥

- ・Facebook への掲載記事には他地域の閲覧者から「いいね」が寄せられている。
- ・各担当者が、行政・医療・介護・福祉関係者向けの研修・学会活動を通じた広報を行った。

ア) 病院運営 EXPO では、当法人理事長・大阪府健康医療部長との特別講演にて、本事業を報告した。

イ) ウ) -1 全国規模の学会で本事業を報告し、医療・介護・福祉関係者との意見交換を予定したが、いずれもオンライン開催となり、専門職向けには一方的な事業報告となった。

今後の課題への対応

⑦

- ・自助（備蓄等）、互助（つながりづくり等）、共助（地域内の防災支援システム・ルールの共有等）、多数の課題あり。

⑦

- ・自助：イベントや広報ツールを活用し、備蓄に関する広報を継続する
- ・互助：地域内の各種イベント（カフェ・ラジオ体操ほか）あり。SACネットワークに加え、新たな関係者（若年者）とのつながりづくりを見据え、大阪市立大学都市防災研究センターのご指導を依頼する。
- ・共助：R元年度（基礎情報登録）、R2年度（メールアドレス登録）の実運用に向け、システムの統合と運用ルールを検討する。防災LINEやシステム利用に要するシステム費の計上や協力企業との協働関係を模索する必要がある。

⑦

- ・左記の課題に対し、R3年度の大阪府福祉基金地域福祉振興助成事業の事業計画を関係者と協議の上で立案し、申請した。
- ・各種課題解決に向け、新たな取り組みを継続する予定である。

※写真の挿入も可能です。（1～2枚程度）